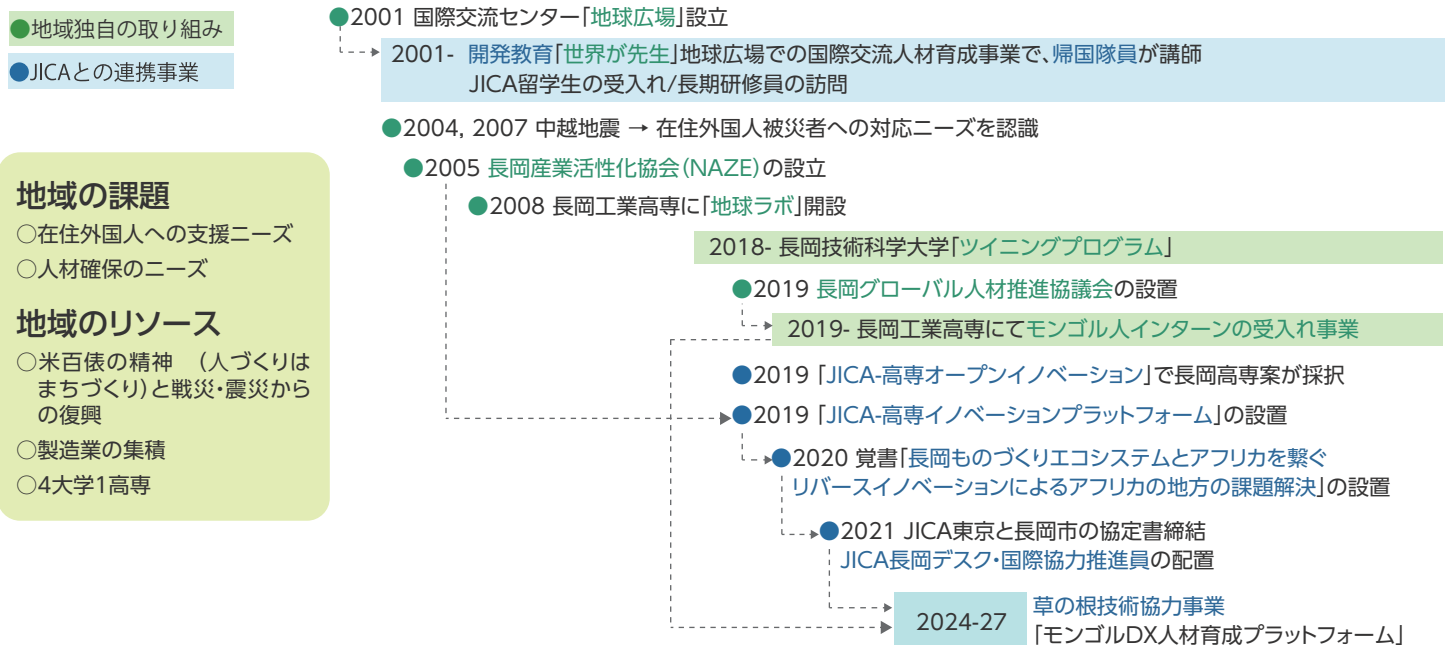


長岡市では、古くから「人づくりはまちづくり」と考え、人材育成に力を注いできました。今から20年以上前に「国際文化都市」というビジョンを掲げ、国際交流センター「地球広場」を開設したところから、「外国人が住みやすい町」への取り組みが開始され、長い年月をかけ「誰一人取り残さない」長岡型の多文化共生社会が定着しています。この多文化共生社会をベースに、産官学民が一体となって、国際人材の育成や外国人人材の確保への取り組みが展開しています。

取り組み年表



国際人材育成と外国人人材が活躍できる共生社会の実現

多文化共生の形成

長岡市では、20年以上前に「国際文化都市」というビジョンを掲げたところから、国際活動が開始されました。背景として、留学等で長岡に居住する外国人への生活上の支援ニーズも把握されており、実態の伴った国際化が必要でした。

2001年、外国人が住みやすい町、多文化共生のまちづくりを目指し、国際交流センター「地球広場」が市内中心部に設立されました。この施設は、JICA地球ひろばの参考になった施設でもあります。外国人市民への多言語による生活相談や日本語学習支援、国際人材育成に関する情報発信など、外国人との共生社会を実現するためのサービスが提供されています。

市内の留学生が増える中、外国人に対する偏見があり、国際教育・開発教育の必要性が認識されていたことから、総合学習の時間を活用して「世界が先生」と題した開発教育の取り組みが開始されました。市内の留学生が自国文化を紹介したり、JICAの出前講座とも連携して帰国隊員による講義も実施されています。

高専によるイノベーションの推進

JICA高専オープンイノベーションチャレンジ事業に長岡高

専の学生が参加し、ケニアのスタートアップ企業と、家畜の飼料を効率良く分別する装置の試作品を製作し、実証実験を行ないました。この取り組みが高く評価され、「JICA-高専イノベーションプラットフォーム」の設立に繋がり、第一号として長岡高専と長岡産業活性化協会 (NAZE) が参画しました。長岡の技術を活用してアフリカの課題解決のために開発した製品を、先進国市場に逆展開するリバースイノベーションにより、日本国内の地方創生への取り組みが進められました。

高度外国人人材確保への取り組み

外国人人材の確保に向け、市内企業、4大学1高専、商工会議所、長岡市等で構成される「長岡グローバル人材推進協議会」が設立されました。留学生の市内企業でのインターンシップが実施され、この内、モンゴルからの受入れ事業を強化していくために、JICA草の根技術協力事業が2024年から開始されました。草の根技術協力事業では、モンゴルの高専3校の教育プログラムの開発と、長岡市内企業への外国人人材活用環境整備を見据えて取り組んでいます。長岡市における長年の外国人が住みやすい町への取り組みが、民間企業による外国人人材の受入れを後押ししています。

JICA国内拠点との協働	JICAからの出向者	国際協力推進員	多文化共生支援	元協力隊の関与
自治体連携協力隊派遣	途上国研修員の受入	協力隊派遣前訓練	草の根技術協力事業	民間連携事業
JICA技術協力との連携	開発教育	その他		

ケース 07 新潟県長岡市

地域へのインパクト

国際対応力/多文化共生の向上

長岡市の国際交流センター、地球広場を中心とした長年の取り組みにより、在住外国人や地域住民が困った時に相談できる場所となっており、双方にとって住みやすい町になっています。

地域人材育成/課題解決力の強化

市民を巻き込んだ多文化共生の推進が国際人材の輩出に繋がっています。また、中越地震の際に外国人への対応の必要性から「誰一人残さない」という意識が強くなり、この考え方は、市民の共働体制、災害支援防災力の向上にも繋がっています。

外国人材の確保

長岡の4大学1高専における留学生の確保を進めていく上で、地球広場における外国人対応を基本とした様々なサービスの充実が大きな支えとなっています。また、産業界でも、市内の人材不足に対する課題認識から、グローバル人材活躍推進協議会が設置されました。外国人支援サービスの充実が外国人材確保の基盤となっています。

促進要因

長い時間をかけた価値観の共有：長岡では、2000年頃から国際化・多文化共生への取り組みを進めており、行政のビジョンによるコミットがあったことで、企業、NPO、市民に多文化共生の価値観の浸透に繋がりました。この地域の多文化共生社会が、近年の高度人材育成や、外国人材確保の動きを後押ししています。

横の連携による相乗効果：長岡の取り組みの特徴として、産業界、市役所内の関係部署、4大学1高専の学術界の連携が有機的に動いている点が挙げられます。長岡で受け入れた外国人材を国際交流センターがサポートする体制が取られています。

キーパーソンが存在：長岡の国際人材育成や多文化共生を推進してきた地球広場の羽賀氏、市役所で予算確保に向けて動いた職員、4大学1高専の横の連携強化に努めたJICA国際協力推進員など、各所でキーパーソンが存在がありました。

米百俵の精神：長岡市には、江戸時代から「人づくりはまちづくり」とする考え方が伝わっており、市民レベルでの国際交流/多文化共生を進めていく上での基本的な考えとなっています。

